学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　　殿

【授業担当者】

所属/職名：水産学部／准教授

氏　　名：石崎　宗周

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）		
研修先	フィリピン大学ヴィサヤス校、SEAFDEC、JICA事務所　他		
研修期間	令和　元　年　8　月　12　日 令和　元　年　9　月　11　日	～	令和　元　年　8　月　28　日 令和　元　年　9　月　27　日

〔研修の目的・概要〕

地域の農・水産関連産業の国際化や活性化に貢献できる人材育成を目的とし、１．国際的理解の基盤となるコミュニケーション能力の向上と２．グローバル視点・途上国視点・地方視点による問題解決能力の向上を図る。語学能力により派遣先をフィリピンまたはインドネシアとし、１についてはそれぞれ、授業と現地学生との交流による演習を中心に構成されるプログラムと現場実習を中心としたプログラムを実施する。２については、派遣先において、渡航先の農・水産学の概要に関する講義等や関連施設等の視察を行う。両派遣先共、JICA事務所にて国際協力事業の実際と途上国のニーズについて学ぶ。

〔研修の成果〕＊事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。

学生報告から、それぞれの項目に対し以下のとおり成果が十分にあったと確認できた。１については、フィリピン大学ヴィサヤス校の協力により実施された語学研修や自主活動時間における学生自身の自主的な市内での活動は、語学力向上の基盤を形成するとともにコミュニケーション能力を高めた。また、現地活動を効果的に行う上でホスピタリティの高い現地での親切な人びととの間で必須であった多くのコミュニケーションは地域理解・相互理解の必要性を理解させるだけでなく、コミュニケーションをとることの重要性、能力向上の必要性を認識させ、同時に人々とのコミュニケーションが楽しいものであることを理解させ、さらなる能力向上の契機づけともなり、能力向上のための学習目標や計画が設定された。２については、渡航前の事前研修において渡航先の農業水産業の概要を解説した上で現地で英語での授業受講させた。あらかじめ設定した公設市場の視察は引率教員の補助で市場の歩き方をあらかじめ身に着けさせ、学生それぞれの興味に基づいて自主活動として継続して視察させた。これらやSEAFDECや実証農場での視察は、渡航先の現状について日本との相違点をベースに理解を深め、渡航先で抱えている問題を認識するのみならず日本で抱えている問題を再認識する契機となった。特に途上国における農産物や漁獲物の流通や有効利用および地域活性化に関する課題は日本国内の非都市部が抱えている課題と共通するところもあり、途上国理解を深めることで我が国の現状を再認識し、途上国の現状や対策を学ぶことで我が国における地域活性化・発展に寄与する能力の素養を身につけることができた。また、今回の渡航が今後の数々の海外活動の契機となり、さらなる能力向上が期待される。JICA事務所では、我が国の国際協力事業の実例の紹介をうけ、また、実際に協力事業を経験した職員のキャリア形成についても助言を受けた。このことは、参加学生の多くがグローバル化に興味を持つ学生であり、卒業後の進路検討についても有益であった。なお、事前学習で扱った内容やJICA事務所でのブリーフィングは、旅行中や現地活動中に適宜おこなわれた安全指導により現実的なものをとして認識され、今後の国際的な活動で常に意識されなければならない安全対策について身につけることができた。

〔今後の課題〕

昨年度のレビューから事前学習の充実が課題とされた。特に今年度より渡航先で英語による授業を受講させることとなり、理解度を高めるために、現地の関係分野の背景や現状理解に関する時間をあらたに1コマ設定した。少なくない参加学生の空き時間と担当教員の空き時間との調整が難しく、さらなる事前学習の充実をはかるためには教室で実施する内容の精査が必要で、ここに収まらない重要な事項については、online教材の開発も必要と考える。また、最も重要な安全対策への理解については、必要性の理解に温度差があり、定められた事項の徹底に時間を要する。多くの参加学生が研修当初で徹底できるような取り組みも必要である。なお、地域視点による問題解決能力の向上について成果を記述している学生は多くなく、これについても研修の目的であることを意識させる必要がある。